

平成 29 年度 第 2 回沖縄県がん診療連携協議会相談支援部会議事要旨

日 時：平成 29 年 7 月 20 日（木）14：11～15：38

場 所：琉球大学医学部附属病院 3 階がんセンター

出席者：5 名 島袋幸代（県立中部病院）、仲宗根るみ（北部地区医師会病院）、平良芳子（県立八重山病院）、佐渡山英子（県立宮古病院）、大久保礼子（琉球大学医学部附属病院）、

欠席者：3 名 樋口美智子（那覇市立病院）、島袋恭子（那覇市立病院）、増田昌人（琉球大学医学部附属病院）、

陪席者：3 名 朝川恵利（県立宮古病院）、安里君代（琉球大学医学部附属病院）、山口元子（琉球大学医学部附属病院）

【報告事項】

1. 平成 29 年度第 1 回沖縄県がん診療連携協議会相談支援部会議事要旨

資料 1 に基づき、平成 29 年度第 1 回沖縄県がん診療連携協議会相談支援部会議事要旨が承認された。

2. がん患者ゆんたく会について（4～6 月）

資料 2-1、2-2、2-3 に基づき、島袋部会長と大久保委員より、4～6 月に各拠点病院にて開催された「沖縄県がん患者ゆんたく会」について報告があった。

3. がん相談件数（4～6 月）

資料 3-1、3-2、3-5、3-6、3-7 に基づき、各委員より、4～6 月の各拠点病院のがん相談件数について報告があった。北部地区医師会病院では、4 月から新しい相談支援シートで記録している。「センターの情報入手」の記入が悩みであるとのことだった。県立中部病院では、シートに合わせた項目づくりを行い、退院支援加算を 6 月から入れたがまだ統計が取れていない。専任がないので件数は多くないが、専従だけでも件数は増えてきているとのことだった。県立八重山病院では、去年からこの様式で入力しているが外来の相談がほとんどなので退院支援はカウントしていない、また、年 800 件の相談件数だったとのことだった。琉大病院は 4 月、5 月の報告となった。新しく国がんから提示された項目で入力し直している。入院患者の相談に入る事もあるが、退院支援加算ではなく生活相談ということでがん相談のみにカウントしており、ほとんど加算がない。今後はカウントすることも考えている。現在は専従のみで専任がないので昨年度は年間 500 件程度であるとのことだった。沖縄県地域統括相談支援センターからはピアサポーターの活動件数の報告があった。那覇市立病院、県立宮古病院は今回は報告なしとなった。また、国がんから提供された相談記入シートを使用すること、琉大病院の様式を提供するので、次回から部会報告を統一することが協議された。

4. 都道府県がん診療連携病院連絡協議会第 9 回情報提供・相談支援部会について

資料 4 に基づき、大久保委員より報告があった。第 3 期がん対策推進基本計画（案）が厚労省から示されており、パブリックコメントを募集している段階である。今後のがん相談支援センターの活動として、自殺防止支援、就労支援（継続）、就労以外のサバイバーシップ関連の相談対応、専門性の高い相談（特に臨床試験）、相談支援センターの周知や質の確保といった取り組みが挙げられている。また、沖縄

で開催した九州・沖縄ブロック地域相談支援フォーラムの報告を行った。次年度より国がんからの資金援助はなくなるとのことである。

5. 地域相談支援フォーラム in 大分について

大久保委員より、地域相談支援フォーラム in 大分は2018年2月10日(土)開催となった。大分より、各県の取り組み報告を行いたいので沖縄からも実行委員を出してほしいとの依頼があったと報告された。実行委員の選出は次回部会で行う事になった。

【協議事項】

1. 患者サロンへのピアサポーター活用について

資料5に基づき、沖縄県地域統括相談支援センター事務よりゆんたく会へのピアサポーターの派遣について提案があり、了承された。県立中部病院はいつでも受け入れ可能、北部地区医師会病院は定期開催しておらず準備が出来次第、県立宮古病院は今年度は難しい、県立八重山病院はがんサロンを定期開催していないので、9月に予定しているがんサロンへの受け入れなら可能、琉大病院は確認することだった。また、那覇市立病院は前々年度より受け入れ中とのことだった。

2. 図書館まつり参加について

資料6に基づき、大久保委員より県立図書館より図書館まつりでのがん相談の招致があった事が報告された。沖縄本島の拠点病院から相談員を派遣すること、冊子等の必要物品は琉大病院が提供することが協議された。

3. 部会各事業について

(1)【施策1】「地域の療養情報2017年版」の配布を行い、2018年版の作成協力する。

作成ワーキングに部会から推薦した仲宗根委員より、様々な職種の方がワーキングに参加して意見交換を行っている。ページ数を減らす方向で調整しているとの報告があった。

(2)【施策2】院内外の患者家族および地域住民に対し、チラシ配布やラジオ番組等で、広報を行う。

部会事務より、6月1日と7月13日の「週刊レキオ」にがん相談支援センターの無料広告が掲載されたことが報告された。

(3)【施策3】患者サロン・患者会間の情報交換会を開催する。

大久保委員より、今年度は2月での開催を検討中と報告があった。

(4)【施策4】就労支援に関する事例に関して、社会保険労務士等との研修会や意見交換会を開催する。

大久保委員より、5月にハローワークの見学を行い意見交換会を実施した。沖縄県産業保健総合支援センターの取り組みも始まっているので、両立促進員、社会保険労務士、就職支援ナビゲーター、がん相談員が集まり事例検討等を行う機会を持ちたいとの意見があり、10月か11月頃に開催する事が了承された。

(5)【施策5】相談センター認知度調査をもとに、満足度調査表を作成する

保留となった。島袋部会長より、各相談センターごとに質の評価を行い、その取組を踏まえて検討したいとの発言があった。

(6)【施策6】相談支援センターチェックリストを作成し、拠点支援病院で実施する

資料 8 に基づき、大久保委員より昨年度国がんから提示されたチェックリストを各病院に記入して頂き、それを 1 つのシートに集約したとの報告があった。院内での広報は全ての病院で行っているが、個人情報取り扱いなど内規についての取り組みが少なく、地域での活動も拡充が必要である。年度末に再度チェックを行いたいとのことだった。

(7) 【施策 7】 各拠点病院主催で年 3 回以上、がん相談員を対象とした研修会を開催する。

資料 9 に基づき、島袋部会長より県立中部病院・北部地区医師会病院は 10 月 21 日に「精神疾患とがん」をテーマに開催予定との報告があった。琉大病院と県立八重山病院は 12 月開催で検討、その次に那覇市立病院と県立宮古病院が開催することが了承された。ファシリテーターを依頼される事もあるので研修会の予定日はなるべく予定を空けておくよう島袋部会長から依頼があった。

(8) 【施策 8】 部会委員が相談支援部会の活動実績を学会等で報告する。

大久保委員より、都道府県がん診療連携病院連絡協議会第 9 回情報提供・相談支援部会にて地域相談支援フォーラムについて報告した旨発言があった。

(9) 【施策 9】 県内のがん診療を行っている病院のセカンドオピニオンリストを作成し公開する。

資料 10 に基づき、部会事務より部会長名で「がん種別セカンドオピニオンリスト」「がん種別担当医のリスト」作成へのご協力依頼の文書を普及啓発部会・相談支援部会長連名で各病院へ送付した旨報告があった。

3. その他

今回の相談支援部会は 10 月 19 日（木）開催となった。

部会事務より、増田委員からの依頼で第 3 次沖縄県がん計画（がん政策部会案・相談支援分野）について相談支援部会で検討して頂きたいと依頼があった。部会委員各自で検討し、意見がある場合はメールにて返信することになった。

島袋部会長より、那覇市立病院主催 8 月 24 日開催「食道がん患者の治療・リハビリ・緩和ケアについて」周知があった。

平良委員より、がん相談員実務者研修について質問があり、大久保委員より、拠点病院の指定要件に相談員の質の向上のため研修を行うよう記載があるので、必須業務であると理解しており、強化事業費を使用していると回答があった。